

事業実施報告書

法人名 NPO 法人さやま環境市民ネットワーク

事業名	市内河川の魅力を掘り起こした総合まちおこし事業
枠の種類	分野指定
分野	みどりと川の再生
①事業の目的・この事業で取り組んだ課題	当NPOでは毎年市内河川に親しむ校外授業の支援を行っていたがコロナ禍で授業の遅れが発生し、また3密管理の緩む恐れのある校外授業が中止になったため、川に親しむ教育機会が失われた。
②課題を解決するため、取り組んだ個々の事業	<p>3密回避の手段として川に親しむ分かり易い動画作りを行い、授業の補助に使える、家庭に持ち帰っても家族で楽しめる教材作りを目標にして取り組むことにした。</p> <p>狭山市は母なる入間川が市の中央を流れるが市内河川（灌漑用水を除く）の歴史（太古から縄文、中世、近世）、自然（河原の岩石、草花、野鳥、水生生物）、環境影響は意外と知られていない。 これらについて分かり易い動画作りを企画した。</p> <p>分かり易い手段としてアニメや紙芝居なども検討したが市内で活躍する腹話術師に小学生向け環境教育をお願いしていることから小学生を演じる形で腹話術師にインタビューをお願いし、先生方に答えてもらう形式で動画撮影、YouTube アップ、QRコード添付、冊子化の形をとる事にした。</p> <p>この結果巨大地震発生や気候変動など現代的課題の説明も付く隆起と海進・海退の結果得られた地形の成立ちや岩石の成立ちを久津間先生や、笹井で発見されたアケボノゾウやメタセコイアの珪化木発掘に関わった竹越先生をお願いすることにした。</p> <p>川の自然観察では日本野鳥の会の津森先生をお願いすることにした。</p> <p>中世の歴史では既に入間川のまちづくりで話題になっている源氏の覇権争いの犠牲になった12才の少年武将、清水冠者源義高と源頼朝と北条政子の間に生まれた大姫との悲話を北川氏の語りをお願いした。</p>

入間川御所の主で足利尊氏の次男足利基氏（9才で初代鎌倉公方になった）が南朝勢力に勝った話を真打講談師五代目宝井琴鶴に「入間川太平記」として創作をお願いした。

狭山市全域の川として不老川、久保川についても歴史ガイドの会や歴史クラブの力や地元名誉市民大野松茂氏の経験と知識をお借りして現地調査した。

③ 個々の事業の内容・実施結果

時期	主な行動
7月	動画制作の可能性調査。演者の調査。 採択のための審査が終わり採択決定した。
8月	基本計画を軸に説明会をNPO運営委員会や関係各所で開催した。関係各所との調整作業を開始した。
9月	入間川探検構想開始。 コロナ禍で教育プログラムが遅れ、カヌー体験は学校側による中止判断が、また子供会も全イベントを中止したためカヌー体験ができなくなった。 足利基氏に関する書籍集め 16日 創作講談「入間川太平記」の仕様とあらすじを書いて新進の真打講談師に創作講談を打診し 2月20日にお願いする約束を取り付けた。 既存メンバーはコロナ対応で活動協力を辞退。
10月	6日 入間川源流の話ができる先生を飯能博物館に相談して協議し久津間文隆氏を紹介された。 9日 久津間文隆氏と調整し動画撮りに合意を得る。メタセコイア発掘やアケボノゾウ足跡化石発見に関わった竹越智氏の紹介を受けた。 24日 上島珈琲店で入間川探検会議 久津間、竹越、安藤、浜田、近藤、高塚、林、吉岡（会議招集）。 説明会及び撮影構想検討会を開催。 会話シナリオが両先生から提示があった。 両実施日を11月17日と12月22日に決定した。
11月	10日 運営委員会で川の自然は、野鳥観察は冬季が最適で津森義則先生を奨められた。同先生にインタビュー形式による動画撮影を依頼し承諾を得た。 17日 入間川探検 7:30 狭山出発～17:05 狭山到着 さわらびの湯で合流、名栗湖のゴルジ、尾須澤鍾乳洞、大持山源流付近で撮影。源流は橋が洪水で崩壊して行けなかった。

	12月	22日 広瀬の礫河原集合、入間川中流域岩石採集、笹井中州渡河、西武公民館前、貝化石採集、元加治陸橋下アケボノゾウ足跡化石
	1月	5日 チラシデザインが完了し出稿。1,000枚印刷依頼 12日 チラシが納品され配布作業開始。 15日 野鳥観察 狙う鳥の方針が津森先生から出される。事前撮影開始。 16日 川（不老川、久保川、逆川）レポートを高塚美也子に作成依頼 冊子全体の編集作業開始~2/23 20日 野鳥観察 29日 大野松茂名誉市民と逆川の現地調査
	2月	(9日 脱炭素チャレンジカップに当NPOが環境大臣賞受賞) 10日 「広報さやま」に入間川太平記募集開始 PR 20日 講談入間川太平記開催。及び動画撮影。 23日 YouTube アップ。QRコード挿入し冊子出稿 26日 冊子納品
④個々の事業の実施により達成した成果の具体的な内容	<p>○広報実績について</p> <p>主に創作講談と語りでは、コロナ禍で、本来狭山市の「広報さやま」やチラシの公民館配布、これまでの活動で得たまちづくりネットワークで180名の来場が可能だったが、40名定員に抑えたため広報を積極的にすることができなかった。 お断りした方も結構いた。</p> <p>現状は冊子が完成してまだ広く配布作業に至らないが、理科の先生の評価は分かり易いと評判である。 狭山市立博物館の学芸員の評価も高かった。 元市長、名誉市民大野松茂氏の評価も良い。 市役所環境課の評価も良い。 報告業務を終わらせて関係各所で説明会を開催します。</p>	
⑤費用の工夫	<p>ほとんどの撮影をプロに依頼せず、地元素人撮影家や写真家をお願いしたこと。 チラシデザインをプロに依頼せずにメンバーが作ったこと。 印刷にネット印刷を活用したこと。 講師の先生が元県立高校の先生で費用削減に理解があったこと。 プロは腹話術師と講談師。講談の映画撮影（但し埼玉全域放映）。 緊急事態宣言下で安価な公民館を使えない日々が多かったのが残念。</p>	
⑥地域社会への還元について	<p>講談と語りについては狭山ケーブルテレビが埼玉ケーブルテレビに載せてくれるので県内全域にPRでき還元性が高い。 市内教育委員会及び近隣教育委員会にPRする。 市立博物館、近隣博物館に冊子を置く。</p>	

	<p>市内図書館、近隣図書館に冊子を置く。</p> <p>気候変動の講演活動を実施し防災を広めるのに活用できる。</p>
⑦ 今回の事業が他の団体、行政等が実施する同種の事業と比べて優れていること	<p>分かり易い科学として小学生になり切ったカンちゃんを使った腹話術によるインタビューで分かり易さが格段に向上されたこと。</p> <p>元県立高校の科学の先生方が子供向けを意識して制作してくれたこと。</p> <p>チーム全員による知恵の出し合いが良い制作につながり分かり易さが格段に向上したこと。</p> <p>いち早くイベントを YouTube にアップし QR コードを配して普及促進につなげたこと。</p>
⑧事業の実施体制	<p>○事業の実施について</p> <p>①総括責任者：吉岡勇三</p> <p>②連絡責任者：近藤彰男氏</p> <p>③現場責任者：久津間文隆氏、竹越智氏、津森義則氏、横山千枝子氏</p> <p>④経理担当者：吉岡勇三、近藤彰男氏</p> <p>⑤広報担当者：安藤倫子氏、浜田博幸氏、高塚美也子氏、林光子氏</p>
⑨ 来年度以降どう事業を継続し発展させていくか	<p>冊子内容も更に充実して計画に乗りきれなかった項目を掲載し追加版を発行する。また新たな YouTube と QR コードを作成し掲載する。</p> <p>ランダムサンプリングによる冊子の評判が良いので更に市場調査し見合った数の増刷により、低廉で頒布する。</p> <p>川の歴史や、自然を理解し、気候変動に対して科学的視点をもって理解し、洪水災害など自らの判断で行動できる市民を育て環境まちづくりにつなげる。</p>
⑩補足事項 (付帯意見への取組み結果)	<p>カヌーについては従来実施していた入間川小学校がコロナによる教育プログラムの遅れや校外授業による気のゆるみで三密になる可能性が高くカヌーを実施しないことが決定され、カヌー購入とライフジャケット購入が見送られた。</p>